

国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）第 78 回総会
ハイレベルダイアログ：プラスチック汚染－
プラスチック汚染をなくすための次のステップ
三宅外務大臣政務官ステートメント

ご参加の皆様、ESCAP 総会の機会に、「プラスチック汚染をなくすための次のステップ」と題したこのハイレベルダイアログを、日本とタイで共催できることを喜ばしく思います。

海洋環境等でのプラスチック汚染は、国境を越えて幅広い国々で生態環境等に影響を及ぼす、ESCAP 各国が直面する緊急性の高い課題になっています。この課題への世界的な取組を進めるべく、日本は 2019 年 G20 サミットにおいて、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を提唱しました。これは、2050 年までの海洋プラスチックごみによる追加的な汚染ゼロの実現を目指すものです。このビジョンの考え方は、全 ESCAP 加盟国・地域を含む 87 の国・地域が共有するに至っています。

ビジョンは提唱されるだけではなく、実施されなければ意味がありません。「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の下で、日本は、42 か国から提出された海洋プラスチックごみ対策の取りまとめに貢献し、各国の事情に沿った取組の着実な実施を支援しています。また、ESCAP、国連環境計画及び国際環境技術センター等の国際機関とも連携し、現地のニーズを踏まえて能力構築・インフラ整備も支援しています。例えば、これまでに世界で 6000 人以上の廃棄物管理の人材を育成する等、着実な成果を上げてきました。

こうした支援では、日本が誇る高い技術も活用しています。タイやベトナム、インドネシア、マレーシア等では、日本の支援

により、河川に流出したプラスチックごみを人工知能を使って監視し、流出ポイントを特定するプロジェクトを実施しています。河川から海洋へのプラスチックごみの流出のメカニズム及びその測定等、世界で科学的知見の蓄積が必要とされる分野にも、貢献しています。

こうした中、本年3月の国連環境総会は、「海洋環境を含むプラスチック汚染を終わらせる」と題した決議を採択し、本年後半から条約交渉が始まることとなりました。この新たな条約交渉の下で、世界で効果的なプラスチック汚染対策を進めるには、日本の経験が生きると確信しています。プラスチックの排出国・消費国も参画して、プラスチックのライフサイクル全体で各国の事情に応じた取組を進めるため日本は ESCAP と連携しながら、条約交渉でも積極的に貢献する考えです。

また、この日本の経験を生かして交渉に貢献するために、我が国は、政府間交渉委員会の共同議長の候補者として、小野洋（ひろし）・環境省地球環境局長をノミネートしています。小野局長は、豊富な学識を有し、廃棄物管理を含む循環経済政策の企画・実施に長年携わってきました。また、先程紹介した G20 での「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」のとりまとめで大きな役割を果たした人物です。小野局長の共同議長への就任が、条約交渉に大きく貢献することは、この後小野局長の話を聞いていただければ、御納得いただけると思います。

日本が誇る環境技術を活用して、プラスチック汚染問題の解決に貢献し、国際的な議論を後押ししていく。これは、岸田総理自らが示している、地球規模課題の解決に向けた日本のリーダーシップのあり方です。引き続きこの方針で、条約交渉を含む、この分野での取組を積極的に進めていく考えです。

最後に、本日のこのダイアログでの政府、産業、学術、非政府のみなさまによる議論が、ESCAP での取組や条約交渉にとっての「次のステップ」を示す実りのあるものとなることを祈念しつつ、私からの挨拶に代えさせていただきます。

御静聴ありがとうございました。